

全国町並みゼミ大内・前沢大会を終えて

9月9日(金)から11日(日)にかけて開催しました第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会を無事に終了できましたことを、改めて御礼申し上げます。大会の振り返りと、事務局としての感想を述べさせていただきたいと思います。

開催までの経過

東日本大震災後、風評被害で観光客が激減した会津地方で「会津復古会」、「喜多方のれん会」(現、蔵の会)、「大内宿保存会」という3つの全国町並み保存連盟加盟団体と、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた「前沢景観保存会」で、2014(平成26)年度の会津大会開催に向け、2012(平成24)年度に準備を進めておりましたが、当時は見送りとなりました。改めて、全国町並み保存連盟から2014(平成26)年度に2016(平成28)年度大会の開催要望を下郷町大内宿(おおうちじゅく)、南会津町前沢(まえざわ)地区で受け、2015(平成27)年度の実行委員会立ち上げからは1年半ほどの準備期間を経て開催に至りました。

途中、参議院議員選挙のため大会日程変更を余儀なくされ、参加者の皆さまにもご迷惑をおかけしましたが、行政が事務局で入らざるを得ない状況でしたので、斟酌いただければ幸いです。



初日の「町並みを次の世代へ」では大内宿と白川村のお話を伺う

大会1日目 全体会

大会テーマは「町並みを次の世代へ～保存と暮らしの共存～」としました。全国的に地方は過疎・高齢化が進み、地域コミュニティの次世代への引き継ぎが課題となっています。観光地化している大内宿、静かな生活を望む前沢地区、生活や住民の状況は異なりますが、保存と暮らしを共存させながら次の世代へ継承していくことは共通の課題であり、大会に参加くださったみなさまの地域にも通じるころはあったのではないのでしょうか。

さて、1日目の全体会は、下郷町の「下郷ふれあいセンター」を会場に開催しました。開会式に引き続き、今年度創設された峯山富美賞の授賞式が行われ、NPO法人「軀まちづくり工房」の松居秀子さんが受賞されました。続いて、「町並みを次の世代へ」と題した対談を行いました。その後、開催地報告・各地からの報告に続き、ブロック別会議、歓迎交流会を行い、初日の全体会のプログラムを終了しました。

歓迎交流会では、地元の郷土料理をメインに提供させていただきました。「しんごろう」(半つきのご飯を丸めてじゅうねん(えごま)味噌を塗り香ばしく焼いたもの)など炭水化物ばかりでお腹いっぱいになってしまったと



歓迎交流会。会場外には郷土料理の屋台が出、そばもふるまわれた

と思いますが、南会津町の4つの蔵の日本酒はお楽しみいただけただでしょうか。

半日という短い時間に目いっぱいプログラムが組まれていましたので、時間が十分に取れないところもありました。今後の大会では、内容の取捨選択も必要ではないかと感じました。

大会2日目 分科会

2日目は分科会を開催しました。午前中は町並み見学、午後はそれぞれに分かれてテーマごとにパネルディスカッション等を行いました。大内宿と前沢地区の2地区は、車で2時間弱の移動距離があり、公共交通機関も大変少ない地域ですので自由な移動は難しい状況でしたが、それが南会津地域の現状であるということもご参加いただいた皆さまには感じていただいたことと思います。

分科会の詳細は割愛させていただきますが、各分科会のテーマは次のとおりです。

第1分科会(大内) テーマ「町並みの保存と活用～町並み保存は住民の味方か?～」参加者と地元住民が今後の大内宿について考えるワークショップ

第2分科会(大内) テーマ「人が住み続けられるまち」生活文化や技術の継承について事例発表とパネルディスカッション

第3分科会(前沢) テーマ「自主防災と持続可能なまちづくり」防災対策や組織づくりについて事例発表とパネルディスカッション

第4分科会(前沢) テーマ「農村集落の生き残り方」過疎・小集落の保存・継承、活性化について事例発表とパネルディスカッション

第5分科会(田島) テーマ「よそ者の目で田島の魅力を掘り起こす」(全国町並み保存連盟主催) 町並み保存の取り



1～4分科会参加者は大会にあわせて行われた屋根葺きを見学

組みがない田島地区を外部（よそ者）の目から見た魅力とその活用について考えるワークショップ

分科会には、各方面で活躍されている多数の出演者にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、ワークショップ形式での分科会にご参加いただいた皆さまには、ご協力をいただきありがとうございました。

大会3日目 全体会

3日目の全体会は、南会津町の御蔵入（おくらいり）交流館を会場に全体会を開催しました。まずは各分科会の状況について、学生ボランティアの皆さんが夜遅くまでまとめた資料を発表いただきました。各分科会の状況をわかりやすくまとめていただき、若者の力を感じました。続いて、地元芸能披露として、田島祇園祭のお囃子「しゃんざり」を保存会のみなさんに演奏していただきました。続いて、福川理事長の進行により会場の皆さまとの総括討議が行われました。最後に次期開催地の名古屋市有松のみなさんへ大会旗を引き継ぎ、大会の全日程が終了しました。

午後からは、会津若松・喜多方コースと南会津コースの2つのエクスカージョンを設定し、希望者にご参加いただきました。

実行委員会事務局の経験から

行政の職員として通常の業務と並行しての大会の準備、地元の方々・連盟との調整、実行委員会やスタッフを動かしていくということは、事務的にかかなりの負担でした。また、下郷町と南会津町は隣町ではありますが、下郷町役場と南会津町館岩総合支所との移動に車で1時間半の時間を要するため、電話やメールで事務連絡をしながら



前沢では第3・4分科会参加者が防災訓練を見学

準備をしてきました。

そのような状況で事務局を経験し、大会を終えて感じたことを述べたいと思います。

まずは、「何のために町並みを保存するのか」「何のために町並みゼミを開催するのか」という基本理念をきちんと押さえなければならないということです。開催する側はもちろんですが、参加者や長く町並み保存に尽力されている会員さんも、町並みゼミ大会に参加される度に、この基本理念に立ち返ってもらいたいと感じました。全国の町並み保存に取り組んでいる方々が情報を交換したり、励まし合ったりしながら、お互いの情報を自分の地域に持ち帰り、新たな取り組みをしてまた情報交換する、それを一堂に会してできるのが全国町並みゼミです。町並み保存、町づくりのトップランナーである会員の皆さまには、開催地や参加者にとって建設的な、前向きに取り組んでいけるような意見交換をお願いしたいと思います。

二点目は、開催地への連盟の支援についてです。大会規模が大きくなり、地元の連盟加盟団体では事務を引き受けられない、そのために行政が動かざるを得ない、そういった状況が続いているのではないのでしょうか。大きくて力のある自治体はよいかもしれませんが、それでは都市部でしか開催できません。全国町並みゼミ開催要綱には「連盟加盟団体が核となって組織された実行委員会」という記載があります。あくまで実行委員会が実施主体で、行政主体の大会ではありません。やむを得ず行政の支援が必要になることもあると思いますが、事務局の仕事を行政に押し付けるのではなく、連盟加盟団体と行政、連盟が役割分担をしながらお互いに協力することが必要

です。連盟の皆さんには、そのような運営ができるような開催地への支援、また内部での体制づくりをお願いします。

三点目は、若者の活用です。大内・前沢大会でも学生ボランティアの皆さんが大活躍してくれましたが、残念ながら、参加者や地元スタッフには若い人の参加が少ない状況でした。町並み保存の取り組みにおいて世代交代は難しい課題だと思いますが、これからの地域を担っていく人材の育成は必要不可欠であると思います。若い人たちが町並み保存や町づくりを自分のこととして捉えるというのはすぐにできることではないと思いますが、若い人たちを巻き込むきっかけをたくさん作っていただき、全国の会員のネットワークや全国町並みゼミの場を有効に活用し、各地区での取り組みを共有していただけたらと思います。

最後に、行政の担当者としての感想になってしまいますが、大会事務局の経験により行政の仕事だけでは出会えなかった全国各地の参加者、出演者の皆さんとの御縁をいただきました。業務に追われる中、第38回豊岡大会実行委員会事務局の嶋さんをはじめ、いろいろな方に助けていただいたり、笑顔で声をかけていただいたり、そういった人と人とのつながりが本当に大きな力になりました。

今後開催される全国町並みゼミが、開催地、会員、参加者の皆さまにとってますます有意義なものとなるよう祈念し、第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会実行委員会事務局としての感想を終わりたいと思います。本当に皆さんの皆さまにお世話になり、ありがとうございました。

(木村沙織<下郷町教育委員会事務局文化財係>・

渡部浩一<南会津町舘岩総合支所振興課企画観光係
兼南会津町教育委員会分室>

／第39回全国町並みゼミ大内・前沢大会実行委員会事務局)

*現在、大会報告書を学生ボランティアのみなさんの協力も得て、編集集中です。大会に参加された方にはお送りする予定です。

*第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会は、11月17日(金)～19日(日)に愛知県名古屋市有松で開催する予定です。



実行委員会、学生ボランティアのみなさんに感謝します